事業者向け 放課後等デイサービス自己評価総括表(公表)

○事業所名	ほみいくらぶ だて			
○保護者評価実施期間	令和6年11月15日		～	令和6年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	令和6年11月20日		～	令和6年12月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室内療育だけではなく、屋外での活動も多く取り入れ、社会経験を積むことが出来ている	お出かけや、お買い物等の活動を取り入れ、公共でのマナーやお金の支払い方、大切さ等を学んだり、多くの経験が出来るように取り組んでいる	より子どもたちが主体的に考えながら行動をしていける機会の充実を図っていく
2	児童や保護者の、日常的に困っている事や自立に向けて等、課題の大きい小さいに関わらず、個々の困り感に対して必要な療育を速やかに行っている	毎日2時間程度、全職員にて打ち合わせを行い意見を出し合い、それぞれの児童にあった支援方法の検討・実践・評価を繰り返し、児童の成長に向けた支援が全体で取り組めるようにしている	より一層、保護者からお話を伺い、関係機関や学校等との情報共有を進めながら、共通認識を持って活動を行っていけるように連携を深めていく。また、外部研修等へ積極的に参加することで支援者の専門性を高める取り組みを強化していく
3	調理活動では、自分たちでレシピを見ながら親子丼や卵焼き等、いろいろな料理に挑戦することが出来ている	子ども達の考えや判断を否定せず、一度やってみようという経験を大切にしている。また、毎回メニューを変え、簡単な料理から少し難しい料理まで幅広く料理に取り組むようにしている	子ども達でメニューを考え、実際に材料を買ってから行う、目の前にある食材を使って料理を作るといった活動を継続し、支援者側が提示するのではなく自分たちで考えて行ってみようという取り組みを増やしていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所または地域と交流する機会の確保	コロナ等の感染症の流行により、様々な機関や保護者と交流する機会が縮小してしまっていた。徐々に機会を戻していけるように様々な企画を検討している	今年度は夏祭りの際に、近隣住民や高校生のボランティアを受け入れる取り組みを行っている。より充実させるために機会を増やしていきたい
2	人材の確保が難しい分野である	道央圏と違い、伊達市近郊で新たに児童福祉に携わるといふ人が少ないという現状がある	働き方改革を行い、現在勤めている支援者が長く勤めていけるように職場環境や業務内容の整備を行う事と人材確保に繋がる工夫をしていけるように検討していく
3	定期的な事業所からのお便りが無い。 ※Instagramでは定期的に活動の様子を発信しているが、あまり周知されていない	LINEを通じて各保護者に随時活動の様子を伝えているが、定期的なお便りとして家庭に配布はしていない。その理由として、職員がプリントを作成する時間をなかなかとる事が難しいという背景がある	お便りを作成できる時間を確保できるように業務改善を検討していく。難しければ、Instagramの定期的な投稿と保護者へのアカウント周知を行い、活動の様子を伝える